



学校だより
第 8 号

もえぎのや 萌木舎

大津市立志賀小学校
児童数 707人
令和4年 6月23日

学校教育目標 『未来を切り開く、心身共に健全で、人間性豊かな子どもを育てる』
三つの校訓 心をこめてあいさつします 額に汗して黙ってそじをします 目と心と耳で聴きます

志賀小学校校歌

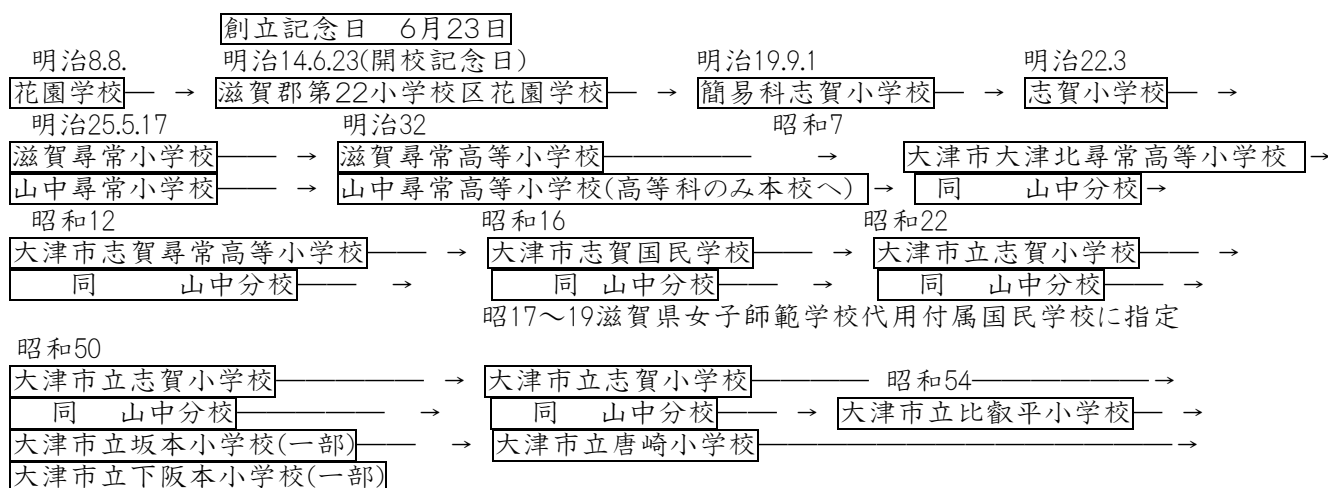
一、春はみどりの麦畑
海までつづく麦畑
ぴーちく ひばりの声かする
かすむお空のはてもなく
心あそべというように

二、昔の人の舟とめた
唐崎ちかいみずうみを
ぽーとならして舟がいく
きらきら光るさぎ波が
水にあそべというように

三、青いお空に白雲が
ぽっかりうかんで志賀のは
黄金の波が光ってる
みんなも勉強しつかりと
できているかというように

四、鳥がなくて宇佐山の
しもおく冬はきびしいが
湖のむこうに日をあびて
やさしい姿の三上山
よいこになれというように

これは、1975年(昭和50年)まで、歌われていた志賀小学校の校歌です。歌詞を見ると、当時の志賀小学校近辺の風景が手に取るように分かります。1975年6月23日(創立記念日)に、創立100周年記念式典が挙行されましたが、その際に、新校歌(くまなく晴れた志賀の朝……現在の校歌)が制定されました。以下、志賀小学校の変遷の概要です。



明治14年6月23日に「滋賀郡第22小学校区花園学校」となり、この日が開校記念日(創立記念日)とされました。明治28年5月に、校舎が新築され、現在地に移転されました。1955年(昭和30年)に、創立80周年記念式典、1975年(昭和50年)に、100周年と歴史を刻んでいます。そして、今日6月23日で147年、3年後の2025年には、ちょうど150周年となります。100周年の時に児童が書いた作文を校長室で見つけました。抜粋したものを紹介します。

学校が始まって、今年で100周年になる。記念行事がいろいろと行われた。クラスごとに合奏や合唱をして、みんな静かに聞いた。私は、この時に、昔のことを思い浮かべた。志賀小学校が出来て間もないころは、ふるしきに教科書を入れて、着物を着て、男の子は頭をまるがりにして、女の子はかみをくくって、ぞうりやげたをはき、学校に通っていたのだろう。志賀小学校が出来た時は、児童数が49人、静かな田畑の道を通っていたのだろう。今の児童数は1200人以上、自動車のよく通るコンクリートの道を通っている。おじいさんに聞いた話だけど、今住宅になっているところも、昔は一面に田んぼで、唐崎は蒸気船が発着する港だったそうです。これからの志賀小学校は100歳をこえたのだから、児童が協力して、もっとよい学校にしようと思います。この志賀小学校が150周年の時には、どう変わったのか、見にきたいと思います。(5年女兒)

御寄附ありがとうございました。

昭和24年度卒業同窓会様より御寄附を頂戴しました。学校のために、お使いくださいとおっしゃっていただきましたので、古くなった教室のカーテンと、タブレットスタンドを購入させていただきました。多大のご寄附に心より感謝申し上げます。この場を借りて、ご披露させていただきます。